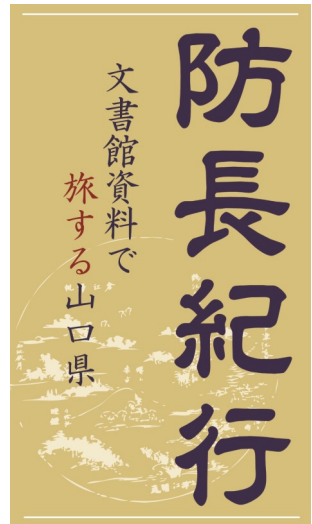


勅使岩倉卿御下向一件（毛利家文庫1雲上68）



幕末維新期の山口とビール(2)

《大久保利通・西郷隆盛と山口とビール》

【明治4年1月】

明治4年(1871)1月7日、勅使岩倉具視が、参議大久保利通、鹿児島藩大参事西郷隆盛を伴い山口を訪れます。同2年6月の版籍奉還後、次の政治課題として廃藩が意識される中、毛利家の協力を得るべく、明治天皇の宸翰を携えての岩倉の来藩でした。

「勅使岩倉卿御下向一件」(毛利家文庫1雲上68)は、この岩倉来藩時の一件記録です。これによれば、9日岩倉は宸翰を毛利敬親に渡し、11日敬親は協力を約束する請書を提出しました。同日、山口で岩倉をもてなす宴会が開かれます。この宴会に大久保と西郷は出席していませんが、毛利家から両名に料理とビール5本ずつが届けられています。料理は「御吸物肴」「御さしみ」「御煮物」「御すし」が入った御小重(提重箱)、ビールは「上ノ分」と注記されており、最上級のものであったよう

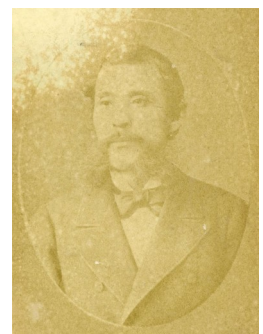
です(シート冒頭写真)。

来藩時、大久保は山口道場門前町の安部平右衛門家、西郷は安部彦十郎家に宿泊しました。『大久保利通日記』によれば、11日、大久保は西郷の宿を訪問したのち、温泉に入るため宿を湯田に移しています(「湯田村え転宿、温泉に浴す」)。翌12日、時間は別ですが、山県有朋、岩倉らが湯田の大久保の宿を訪れています。夜には木戸も来ています。記録には残っていないのですが、11日、12日両日の大久保、西郷、木戸らが、宿で毛利家から届けられた料理やビールを一緒に口するといった場面は無かったでしょうか。

山口を離れる一行へは、毛利家からお土産として、岩倉に「鯨南蛮煮」と「粕漬瓜」が、大久保と西郷らには「鯨南蛮煮」が贈られています(裏面写真)。

【明治4年5月】

明治4年3月28日毛利敬親が急逝します。藩内がまだその悲しみに包まれるなか、5月12日、参事大久保利通および西



大久保利通
(田中保彦文書33)



大西郷隆盛翁銅像
(雨村家文書115-4)

郷隆盛がふたたび山口を訪れ、帰藩中の木戸と面談しています。廃藩置県を見据え、木戸の東京帰還、山口藩からの御親兵派遣を求めるためでした。木戸は上京を承諾し、御親兵派遣も決まります。

この時、毛利家が久保に対し「ビール」10本を贈ったことを示す記録が残っています（「諸御買物并諸役所其外江物々払切渡其外諸沙汰帳」9諸省343<3の2>）。14日公館で久保・西郷をもてなす宴席があり、15日には木戸が久保・西郷の宿を訪れています。久保らはこののち山口を発し、17日に木戸とともに三田尻から船で東京へと向かいます。

12日はとても暑い日だったといえます（「今日の熱気尤甚敷」『木戸孝允日記』）。毛利家から贈られた10本のビール、久保は暑い山口滞在中に口にしていたのではないのでしょうか。

覚
一、御吸物肴
二、御さしみ
三、御煮肴
四、御すし

一 御小重壺組充

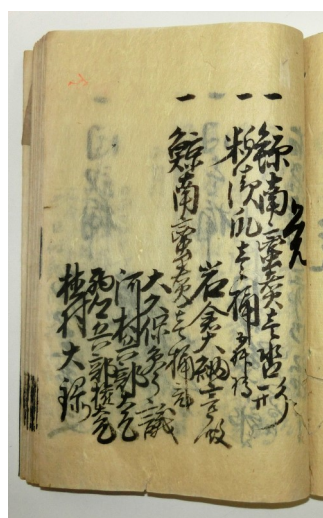
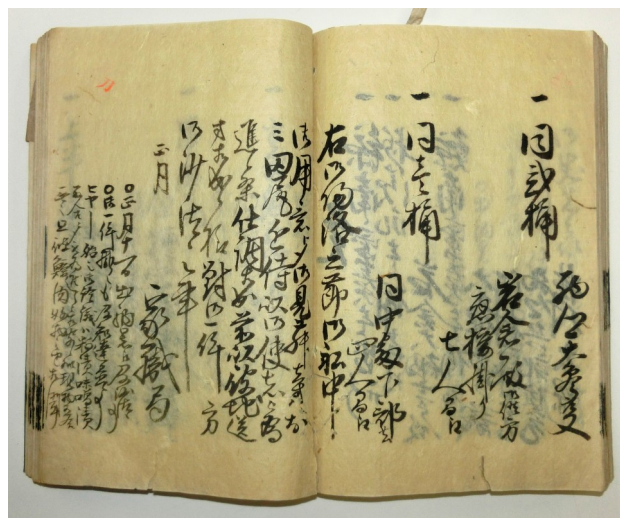
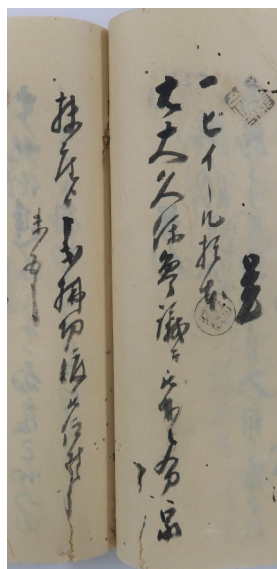
一 **ビール五本充**
但、上之分

右今日岩倉殿御出二付、御招をも可被成候処、其義無之二付、前書之通、今昼後近侍御使者を以被差贈候条、对御一件方江仕出御沙汰之事

正月十一日 家職局

大久保参議
西郷大参事

「勅使岩倉卿御下向一件」シート冒頭写真の釈文



「勅使岩倉卿御下向一件」より岩倉一行へのお土産

「諸御買物并諸役所其外江物々払切渡其外諸沙汰帳」より

覚
一 **ビール拾本**
右大久保参議江被下候分、家扶座方申出、払切渡被仰付候事
(明治4年) 未五月

覚
一 鯨南蛮煮 杏杵形
一 粕漬瓜 壺桶 五升樽
岩倉大納言殿（岩倉具視）

一 鯨南蛮煮 壺桶充
大久保参議（大久保利通）
河村兵部大允（河村純義）
西郷兵部権大允（西郷従道）
植村大録（植村正直）
西郷大参事（西郷隆盛）

一同式桶
岩倉殿御供方
応接掛り
七人間江

一同壺桶
同中番下部共
四人間江

右御帰洛之節御船中御用意トシテ御見舞旁於三田尻近侍以御使者被為進候条仕調相成、前以彼地送方相成候様、对御一件方御沙汰之事
(明治4年) 正月 家職局